

序章 寒河江市のすがた

1 市民憲章

寒河江市民さくらんぼ憲章 (昭和 52 年 12 月 26 日制定)

わたくしたちは、緑ゆたかな自然と伝統に誇りを持ち、フルーツのまちさがえの調和ある発展をねがい、市民ひとりひとりのちかいとしてこの憲章を定めます。

恵まれた自然を大切に、住みよいまちをつくろう

- 緑と水と道路のきれいな環境をつくります
- 自分の手から公害をなくします
- 奉仕活動にすすんで参加します

おたがいに励ましあい、希望と生きがいのあるまちをつくろう

- いたわりのこころをもち、小さな親切を実行します
- おたがいに理解しあい、助けあいの輪を広げます
- 感謝と希望にみちた、しあわせな家庭をつくります

きまりと約束を守り、あかるいまちをつくろう

- 時間と約束ごとは守ります
- 人に迷惑をかけず、よいことはすすんで実行します
- 公共物は大切にします

文化の高い、スポーツのさかんなまちをつくろう

- 教養を高め、豊かなこころを育てます
- ふるさとを愛し、文化財の保護につとめます
- スポーツに親しみ、心身の健康につとめます

産業を振興し、躍進するまちをつくろう

- 勤労をとうとび、つくるよろこびをもちます
- 自分の仕事に責任をもちます
- 働くことに誇りを持ち、豊かなくらしをきずきます

2 市の概況

(1) 市が誕生するまで

寒河江市の最古の遺跡は、2万年前の旧石器時代に遡ります。その後、寒河江川や最上川縁辺の段丘には縄文時代の集落が連綿と営まれ、弥生時代を迎えます。

高瀬山には、日本列島北限の古墳が築造され、古代の律令体制に組み込まれていきました。寒河江荘の成立は、平安時代の中期です。

鎌倉時代から安土・桃山時代には、大江広元をはじめとする大江家の所領となり、18代高基が最上義光と戦い敗れてから最上氏の所領となりました。最上家支配の後、幕府の直轄地となり代官所が置かれました。

明治11年に郡区町村編成法によって、西村山郡に属し、郡役所が開設され、明治22年に市制・町村制の施行により、寒河江ほか6村が誕生しました。桜桃(さくらんぼ)が普及し始めたのは、この頃であると伝えられています。明治26年に寒河江が、明治33年に白岩が町制を施行しました。

昭和29年8月1日に寒河江、西根、柴橋、高松及び醍醐の1町4村が合併、寒河江市が誕生し、同年11月1日に白岩町と三泉村が編入され、現在に至っています。

(2) 現在の状況

本市は、山形自動車道、山形新幹線、山形空港などの高速交通網の要衝の地にあり、山形県内陸部の中核都市として発展を遂げています。

本市の人口は、昭和45年国勢調査人口38,558人を底に、年々増え続け、平成17年国勢調査では43,625人で、これまで最も多い人口を記録しました。

四季の移ろい、寒暖の変化が大きい気候のため落葉果樹の栽培が盛んで、特にさくらんぼは日本一のブランド力を誇っています。そのほか、野菜、花卉、米なども含め、高品位の農業地帯として発展してきました。

さらには、繊維、食品製造業などの地場産業に加え、近年は寒河江中央工業団地に優良企業が進出した結果、工業出荷額が大きく伸び、まちづくりの基盤を担っています。観光サービス業においても、慈恩寺、寒河江温泉そしてさくらんぼを中心とした周年観光農業などへの観光者数が大きく伸び、バランスのよい産業を形成しています。

また、さくらんぼ祭りや寒河江まつりなど、四季折々のまつりでまちが盛り上がり、各種郷土芸能も数多く伝わっています。

平成 14 年、本市の最上川ふるさと総合公園を主会場に開催された「第 19 回全国都市緑化やまがたフェア」では全国から多くの来場者があり、大成功を収めるとともに、花のまち寒河江の名を全国に高めました。

平成18年度を初年度として、「歴史と文化の織りなす 気品ただよふ美しい都市 寒河江」を目指した第5次寒河江市振興計画がスタートし新しいまちづくりが進められています。

(3) 市の自然と位置

本市は、山形県中央部に広がる山形盆地の西部に位置しています。

東は天童市、村山市、河北町、西は西川町、大江町、北は大蔵村、南は中山町に接する総面積 139.08 km²の都市です。

気候は夏と冬の気温差が大きく、典型的な内陸型気候で四季の区別もはっきりし、降雪期は 12 月から2月までで、山形県内では雪の少ない地域です。

中心市街部に標高160mの長岡山があり、市のランドマークとなっています。

東に奥羽山脈、西に朝日連峰と月山、北に葉山が眺望され、市街地北東部を寒河江川、南東部を最上川が流れ、長岡山の緑や国道 112 号フラワーロードなどにも代表される美しい都市です。

極所の経緯度

方位	地名	経緯度
東	大字日田元新田字下野	東経 140 度 19 分
南	大字島字皿沼南	北緯 38 度 21 分
西	大字幸生字三合	東経 140 度 08 分
北	大字幸生字シノマタ	北緯 38 度 32 分

ランドマーク

人目を惹き、そのまちを訪れる人の格好の目印となる。それだけでなくまちに住む人びとに愛され、誇りを与えるのがランドマークである。

3 せせらぎ宣言

寒河江市せせらぎ宣言 (平成 6 年 6 月 24 日制定)

寒河江市は、寒河江川をはじめ多くの清らかな川に包まれた美しいまちです。

この祖先から受け継いできたさわやかな瀬音が聞こえる自然と環境を保全し、将来に継承していくことが、私たちの重要な責務です。

私たちは、一人ひとりが清流を守り、育て、川、水を生かし、せせらぎに彩られた潤いと活力に満ちた寒河江市を創造していくことを決意し、ここに、「せせらぎのまち・寒河江」を宣言します。

4 市の木、花、緑

市の木 さくらんぼ (昭和 59 年 7 月 2 日制定)

市の花 つ つ じ (昭和 59 年 7 月 2 日制定)

市の緑 寒河江ギボウシ (平成 16 年 10 月 27 日制定)

5 市 民 歌

寒河江市民歌 (平成 16 年 10 月 27 日制定) 作詞 北 川 康 宏
作曲 佐 藤 眞

- 1 やさしい風に さそわれて
あるいてみよう
ふるさを
せせらぎひかる 寒河江川
たわわにみのる サクランボ
心にあかりを ともしてくれる
寒河江は夢が はずむまち
- 2 かがやくひざし あびながら
みつめてみよう
ふるさを
季節の花が さきほこり
緑にはえる 月山
心をつないで しあわせつくる
寒河江は明日を 描くまち
- 3 ときめく想い だきしめて
そだててゆこう
ふるさを

みこしをかつぐ 若いあせ
歴史をきざむ 慈恩寺よ
心の翼を 未来にむけて
寒河江は希望と 歩むまち

6 さくらんぼの日

寒河江市さくらんぼの日 (平成 2 年 3 月 27 日制定)

毎年 6 月第 3 日曜日を「寒河江市さくらんぼの日」と定める。

7 姉妹都市

大韓民国	安東市	昭和 49 年 2 月 4 日締結
トルコ共和国	ギレスン市	昭和 63 年 6 月 25 日締結
神奈川県	寒川町	平成 2 年 11 月 1 日締結

8 市役所の位置

寒河江市役所 東経 140 度 16 分 北緯 38 度 22 分
寒河江市中央一丁目 9 番 45 号